

(分類 A.1.1.0.2-5)

在 獨 帝 國 大 使 館

本第 九二 號	昭和 三年 五月 九日	在 獨	特 命 全 權 大 使 長 岡 春 日	外 務 大 臣 岡 野 田 中 義 一 殿	濟 南 日 文 兵 衛 完 二 閣 之 新 聞 論 文 切 抜 送 付 件	往 電 第 四 五 號 二 閣 之 ドイツ ナ ン パー ル ゲ イ ン 紙 所 載 切 抜 送 付 件	レ ー 空 ノ 論 文 切 抜 送 付 件
---------	-------------	-----	---------------------	-----------------------	---------------------------------------	--	-----------------------

臣 細 亞 局

第一 課 長

記 録 係 長 濟 南 事 件 前 聞 御 調

昭和 三年 五月 廿 五 日 接 受

有 附 系

抄 子

記



# ren um Die Wähler die Missjaldien zu unterdrücken

werden müssen, wenn die gesegneten Vorwahlen  
erhalten werden. Die Wähler sind die „Gelds“, und  
ihnen gegenüber der Familie zu stehen. Die Wähler  
sind die „Gelds“, und ihnen gegenüber der Familie  
zu stehen. Die Wähler sind die „Gelds“, und ihnen  
gegenüber der Familie zu stehen. Die Wähler sind die  
„Gelds“, und ihnen gegenüber der Familie zu stehen.

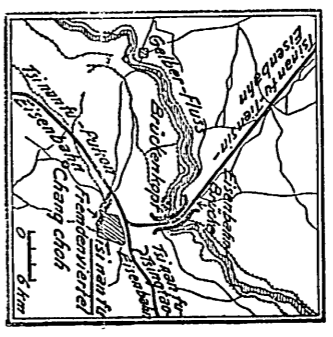
Die Wähler sind die „Gelds“, und ihnen gegenüber  
der Familie zu stehen. Die Wähler sind die „Gelds“,  
und ihnen gegenüber der Familie zu stehen. Die Wähler  
sind die „Gelds“, und ihnen gegenüber der Familie  
zu stehen. Die Wähler sind die „Gelds“, und ihnen  
gegenüber der Familie zu stehen. Die Wähler sind die  
„Gelds“, und ihnen gegenüber der Familie zu stehen.

# Der Vormarsch auf Peking fortgesetzt in Kanting und Schanghai

Die Verdrängung der chinesischen Regierung  
aus Peking ist die Hauptaufgabe der japanischen  
Militärregierung. Die Verdrängung der chinesischen  
Regierung aus Peking ist die Hauptaufgabe der  
japanischen Militärregierung. Die Verdrängung der  
chinesischen Regierung aus Peking ist die Hauptaufgabe  
der japanischen Militärregierung.

# Japans Vorstoß gegen China

Das Japan und die Wähler sind die „Gelds“, und  
ihnen gegenüber der Familie zu stehen. Die Wähler  
sind die „Gelds“, und ihnen gegenüber der Familie  
zu stehen. Die Wähler sind die „Gelds“, und ihnen  
gegenüber der Familie zu stehen. Die Wähler sind die  
„Gelds“, und ihnen gegenüber der Familie zu stehen.



Die Verdrängung der chinesischen Regierung aus  
Peking ist die Hauptaufgabe der japanischen  
Militärregierung. Die Verdrängung der chinesischen  
Regierung aus Peking ist die Hauptaufgabe der  
japanischen Militärregierung. Die Verdrängung der  
chinesischen Regierung aus Peking ist die Hauptaufgabe  
der japanischen Militärregierung.

Die Verdrängung der chinesischen Regierung aus  
Peking ist die Hauptaufgabe der japanischen  
Militärregierung. Die Verdrängung der chinesischen  
Regierung aus Peking ist die Hauptaufgabe der  
japanischen Militärregierung. Die Verdrängung der  
chinesischen Regierung aus Peking ist die Hauptaufgabe  
der japanischen Militärregierung.

電信寫

陸海參軍  
寫送付濟

米



昭和3 五三一九 暗 華府 本省 五月十日後著 情、亞

田中外務大臣 松平大使

第一三八號

往電第一三七號前段ニ關シ

事件ノ重大性ヲ傳フル電報各地ヨリ到ルニ伴レ富強一般ノ懸念不  
安ノ模倣モ漸ク顯著ニシテ八日九日兩日ニ亘ル諸新聞ノ論調ヲ綜  
合スルニ別電第一三九號ノ通日本ニ對シ警戒乃至警告的態度ニ出  
ツルモノアリ尤モ右ハ八日彼我ノ間衝突再開ノ報道接到以前ノ論  
調ト認ムヘキ處九日各新聞紙ハ右再衝突ノ報道ニ付大々的ニ記事  
ヲ掲ケ中ニハ日支ノ間事實上戰爭開始セリトノ見出シテ掲クルモ

ノモアリ而シテ右ニ關シ東京及支那各地米國通信員ノ報道ハ概シ  
テ事態ノ真相ヲ傳ヘ居ルモノノ如ク認メラルルモ新聞紙ニ依リテ  
ハ上海方面支那側ノ發表ニ基キ我方最後通牒中特ニ山東鐵道沿線  
一定區域ヨリ支那兵撤退要求ニ關スル部分ヲ特筆シ居ルモノ無キ  
ニ非ス

別電ト共ニ英ニ轉電シ英ヲシテ佛、露、獨、伊、白ニ轉電セシム

海外五分



電信寫

陸海參軍へ

246

V

陸海參軍へ

昭和3 五三一二 平 ワシントン 本 省 五月十日後着 發 情、亞

田中外務大臣

松平大使

第一三九號ノ一(別電)

九日「フイラデルフィア、インクワイアリー」ハ今回ノ事件ニ處シ最モ重要ナルハ全般の排外熱ノ勃興ヲ防クニ存シ之カ爲ニハ列國殊ニ日本側ニ於テ極力自制ヲ必要トスト述ヘ又八日「ニユーヨーク、タイムズ」ハ田中首相ハ對支二十一箇條ヲ強要セシ一派ニ敗ヘラルルト雖モ右要求ノ復活ニ類スル山東軍事占領カ再ヒ日本ヲ世界的彈劾ノ的ト化スルニ至ルヘキヲ悟リ得サルニ非サルヘシ只不幸ニシテ極東ニ於テハ政策ノ運用ハ常ニ面子ノ問題ヲ伴ヒ日

本側ニ於テ事件ヲ不問ニ附スルニ於テハ支那ヲ恐ルルカ如キ印象ヲ與ヘ却テ益々排日運動ヲ培フニ至ルヘク事態ハ一年以前ノ南京事件ト遠ク異ル所ナク從テ本件ニ處スルニ最モ賢明ノ策ハ英國ノ故智ニ倣ヒ充分ノ援兵ヲ送ルト同時ニ肝要有效ノ解決ヲ計ルニアリト述ヘ又九日「ニユーヨーク、ワールド」ハ今日ノ事件ニ對スル日本新聞紙ノ態度ノ冷靜且公平ナルヲ指摘シ世界的模範ナリト激賞シ田中内閣ハ前内閣ノ如ク支那ニ對シ友好的ナラサルモ民論復讐ニ加擔セスシテ平和ニ傾ク以上同内閣ト雖改心シテ進ムナルヘシト述ヘ居レル處一方八日「バルチモア、サン」ハ日本ノ參謀本部ハ山東ノ軍事占領ヲ懲慝シ居レリト報セラルルカ東京政府カ斯ル不祥ナル計畫ニ陥ルノ危険ナキニ非ス西比利亞ニ手ヲ燒キタ

海軍省

ル田中首相ハ山東ニ手ヲ觸ルル以前細心ノ注意ヲ要スヘシ外國兵  
ヲ以テ支那ヲ征服シ得ルノ日ハ既ニ過去ニ屬スルノミナラス尙聯  
盟規約四國條約九國條約等ヲ考慮スヘキナリ是等條約ノ下ニ日本  
ハ精神上及法律上戰爭ヲ回避スルノ義務アリ是等ハ參謀本部ノ所  
謂内政問題ニ非スシテ今日如何ナル強國ト雖モ山東事件ニ纏綿セ  
ル影響ノ廣大ナルニ無關心タルコト能ハサルヘシ特ニ米國トシテ  
ハ日本ノ山東ニ於ケル優越權ノ擴張ニ對シ常ニ抗爭スルモノナリ  
ト述ヘ(續ク)

抄  
抄  
✓

電信寫

姓  
三  
三

昭和3 五三一六 平 華府 五月十日後着 情、亞

田中外務大臣 松平大使

第一三九號ノ二(別電)

又同日費府「バブリックレツジャー」ハ濟南事件カ支那領土占領ノ因トナルカ如キハ時代錯誤ナルモ日本官邊ニ於テハ之ヲ敢テシ得ルカ如ク思料スルモノアリ日本ニシテ山東居留民保護ノ爲ニ内亂ノ繼續期間同省ノ中立地帯ヲ宣言スルカ如キコトアラハ同省ノ永久的勢力範圍設定ノ爲一大地步ヲ築クモノナルヘク山東問題ハ華盛頓會議以前ニ遡リ日本人ノ山東省放逐問題ヲ惹起スヘシ米國政府トシテハ特殊ノ注意ヲ以テ事情ノ推移ヲ注視スルヲ要スト

論シ居レルカ八日華盛頓「スター」ハ一年前南京事件ノ際現政府カ對支干涉政策ニ加擔セサリシ賢明ヲ賞揚スルト共ニ在支米國居留民保護ニ對スル警備ノ充實セルヲ説キ宣教師射殺ノ一事件ヲ除クノ外山東ニ於ケル戰爭ノ爲何等米國ノ利益蹂躪セラレサル今日米國トシテハ在支自國利益擁護ニ留意スル外外交的ニモ軍事的ニモ紛擾ノ渦中ニ投スルコト無カルヘシト説キ居レリ

海外友邦

情。亞

昭和3 五一九四 平

倫敦

五月九日前着

田中外務大臣

佐分利代理大使

第七七號

往電第七六號ニ關シ

夕刊及八日ノ二三ノ新聞ハ日本ノ陸海軍増派ニ依リ事態重大  
ヲ報シタルモ主ナルモノハ濟南事變ノ沈靜日本輿論ノ平靜及南京  
政府カ排日運動ヲ緩和シ居ル事情ニヨリ此ノ上大事ニ至ラサルハ  
シトノ報道ヲ揭ケタルカ「テレグラフ」ハ論說ニ於テ左ノ通列國  
協調ノ要ヲ述ヘタリ

日本陸海軍ノ増派ハ其ノ内政上並ニ對支貿易上ノ顧慮ニ鑑ミ居留

電信寫

249

民保護ノ必要ノ範圍ヲ出テサル可ク何等政治的意味ヲ有セス支那  
ハ極端ナル對外硬ヲ示シ居ルモ其ノ國內産業ノ維持發達上外國商  
人ノ在住ヲ必要ト認ムヘシ然ルニ之ニ對シ南北何レモ充分ノ保護  
ヲ舉ヘ難シトセハ勢ヒ列國ハ自國民ヲ保護セサルヲ得サルモ之カ  
爲巨額ノ費用ヲ要シ支那ノ感情ヲ激發スルカ故ニ何國モ無制限ノ  
駐兵ヲ好マス而モ此ノ状態ハ一時ノ變態ニ止マラス今後十年乃至  
二十年モ繼續スヘシト思ハル列國ノ利害ヲ同シフセル支那對外貿  
易保護ノ爲日、英、米、佛等カ事變ニ應シ別々ニ矢面ニ立ツカ如  
キハ公平ニ非ス之ニ加フルニ外人保護ノ措置ハ經濟上支那ヲ利ス  
ルハ勿論支那軍隊ノ妄動ヲ匡正スル所以ナレバ此ノ際列國ハ此ノ  
目的ノ爲共同ノ措置ヲ願慮スヘキ時ナリト惟ス  
米、佛、獨、伊、露、白ニ郵送セリ



海外及郷



昭和3 五二一〇 暗

華府 本省

五月九日後着

情、亞

田中外務大臣

松平大使

第一三七號

往電第一三二號ニ關シ

其ノ後濟南事件ニ關スル電報續々各地ヨリ到著シ一般ノ注意ヲ喚起シ居レル處今日迄ノ處新聞通信論調等モ概シテ我方ニ理解アル態度ヲ續ケ居レルモ一方昨今引續キ出兵ノ噂アルニ對シ向後時局ノ變化ニ付一般ニ相當懸念シ居ルヤニ見受ケラル從テ今後出兵續キ且支那側ノ宣傳盛ムトナルニ於テハ自然當國輿論ノ上ニモ多少ノ影響無キヤヲ惧ル依テ八日國務長官ヲ往訪シ今日迄ノ情報ニ依

電信寫

250

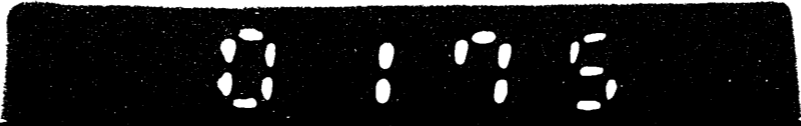
陸海參軍へ  
寫送付済

リ出來得ル限り詳細ニ事件ノ經過ヲ内話シ同時ニ日本政府ノ目的トスル處ハ絶對ニ居留民ノ生命財産保護ニ存シ支那側ヨリ挑發シ來ラサル限り進ンテ事ヲ構フル無ク又時局平定シテ右生命財産ノ安固ヲ期シ得ヘキニ至ラハ撤兵ヲ斷行スヘキコト豫テ首相聲明ノ通ナリト述ヘタルニ長官ハ右情報ニ對シ謝意ヲ表シ更ニ一個師團出兵ノ情報ニ付質問セシニ付未タ公報ニ接セサル旨答ヘ置ケリ次テ本使ノ問ニ對シ長官ハ天津、北京方面ニ於ケル米國人ノ保護ハ現在ノ兵力ニテ充分ナリト思考スルヲ以テ今後特ニ出先キノ公使領事ヨリ稟申無キ限り居留民ヲ引揚クルノ意思無シト述ヘ居リタリ尙申ス迄モ無キコト乍ラ向後時局ノ發展ニ伴ヒ東京或ハ當館ニ於テ日本側ノ情報ヲ發表スルモ米國側ニ於テハ現地ニアル米人殊

此類  
あり  
信  
年  
十

ニ同國領事ノ情報ニ重キヲ置クヘキハ當然ニシテ若シ我方ノ情報  
 ト右領事ノ情報トノ間ニ著シク懸隔アル場合ニハ當國輿論ハ我方  
 ノ情報ニ不信ヲ置クコトトナルヘキヲ以テ現地ニアル我領事及軍  
 憲等ニ於テ米國領事等ニ對シテハ絶ヘス正確ナル情報ヲ供給シ充  
 分ノ聯絡ヲ執リ置カレムコトヲ希望ス

英ニ轉電シ英ヲシテ佛、露、獨、伊、白ニ轉電セシム



マミラ

電信寫

昭和五 五二四七 平 馬尼刺 九日後發 五月九日後着 亞

田中外務大臣 米垣總領事代理

第三二號

山東出兵當初ヨリ當地在留支那人ハ相當排日ノ氣勢ヲ示シ居リタ  
カ五日南軍政府ニ於テ濟南衝突原因ノ真相トシテ我軍警備區域  
ニ入レル南軍兵士殺害セラレ且外交委員蔡公時我軍ノ虐殺ニ遭ヒ  
又非戰鬥員約千名殺傷セラレタリト公表シタル結果當地在留支那  
人ハ連日國民大會ヲ開キ排日氣勢ヲ擧ケ絶對ニ南軍援助ヲ誓ヒ米  
國大統領其ノ他ニ右事情ヲ訴ヘ同情ヲ求ムル通電ヲ發シタリ當地  
新聞論調ハ出兵當初ハ比較的公平ニシテ論評ヲ避ケ居タルモ出兵

増加ニ伴ヒ昨今漸次日本ノ眞意ニ疑ヲ懷キ非難的態度ヲ探ラント  
スル傾向アリ

在留支那商ハ主トシテ日貨取扱商ナルヲ以テ此ノ際日貨排斥ヲ爲  
スハ自纏自縛ニ陥ルモノト見當地方面ニ於テハ之ヲ行ハサルコト  
ニ決定セリ

反響

電信寫

253

5385

Plain.

Calgary,

Received, May 9, 5, a.m. 1928.

Japanese Imperial Government, Tokyo.

Assure peace in eastern Asia, demand withdrawal  
of all Japanese forces from Shan tung.

Calgary Chinese Association.

出兵

REEL No. A-0028

アジア歴史資料センター

東三省公報（五月九日）論說

濟南事件ヲ論スト題シ

日本兵ト南軍トノ衝突事件ハ意外ノ事ニテ世人ノ驚キタル所ナルモ  
 黨軍ノ北伐宣言、日本人ノ出兵動議以來吾人ハ必ス此ノ舉ニ出ツル  
 事ヲ想像セリ日本側出兵ハ居留民保護ト青島膠濟ノ回收ニシテ日本  
 側ハ隙ヲ窺ヒ機會ヲ捉ヘムトス即チ過激思想ノ取締方法ナキ爲内閣  
 ハ國民ノ注意ヲ山東出兵ニ向ケシノ外交事件ヲ釀成シ將來ノ口實ト  
 爲スカ如シ南軍ハ複雑ニシテ帝國主義ノ打破ヲ「モツト」トシ今  
 同ノ舉動カ或ハ非理ノ行爲ニ出テタルヤ又ハ強權ノ壓迫ニ激シタル  
 ヤハ眞像不明ナルモ南軍ト日本軍トハ衝突惹起ノ可能性アリ要スル

在奉天日本總領事館

611-2312

公第三五一號

昭和三年五月九日

在奉天

情報部

總領事 林 久 治 郎

外務大臣男爵 田中義一殿

山東出兵ニ關スル新聞論調報告ノ件

本件ニ關シ當地漢字新聞論調別紙要譯ノ通右報告ス

本信寫送付先 在支公使

在奉天日本總領事館

亞細亞局

第一課

昭和三年五月拾四日接受

附屬書添附

ニ今次事件ノ爲將來ノ交渉ニ其ノ代價トナルコト必然ナリ國民軍北  
 伐ノ成功不成功ハ未知數ナルモ一大交渉案件ヲ釀成シ山東ノ利益ヲ  
 切斷シ國家ノ主權ヲ喪失シ爲ニ蔣介石ノ政策ニ大打撃ヲ與ヘタリ

醒時報（五月九日）輿論

五月ノ山東ト題シ

日本出兵ノ理由及其ノ取リタル手段ハ國際法及國際道徳ニ照シ許ス  
 ハキニアラス五月七日ハ紀念トシテ青島回收以來忘却セル所ナリ日  
 本ノ第二次山東出兵ハ絶對ニ正當ノ理由トナラス今尚ノ出兵ハ誤謬  
 ニシテ之レヨリ生スル責任ハ當然日本當局ニ於テ負フヘシ

新亞日報（五月九日）

在奉天日本總領事館

本紙ハ日支兵ノ衝突事件及五九紀念ニ對スル記事ヲ以テ殆ント全紙  
 フ埋メ前者ニ對シテハ「日本ノ山東攘奪ニ對スル反抗宣言」「對日  
 經濟絶交日貨抵制」「帝國主義者タル日本ノ打倒」「事件解決前ニ  
 日本ハ山東佔據ニ決定」トノ見出ヲ附シ後者ニ付テハ各懸賞當選文  
 フ登載セリ

在奉天日本總領事館

上述日本ノ用意ニ鑑ミル時非ノ幾何レニアルヤハ最早議論ヲ待ツシテ  
 明ナリ、然リト雖モ各紙ノ報道ヲ綜合スルニ當日發生シタル事件ノ範  
 圍ハ左迄廣大シ居ラザリシガ如クナルヲ以テソノ際直ニ之ヲ阻止シタ  
 リセバ或ハ收拾ノ可能性アリタルモノナランモ只憂慮ニ堪ザルハ黨  
 日兩軍ノ惡感既ニ深ク日軍ハ斷ジテ急遽撤退ヲ肯ゼザルヘク黨軍亦ソ  
 ノ進行ヲ中止セザルベキコトニシテ今ヤ正ニ濟南ハ問題ノ焦點トナリ  
 軍兵多キコト雖ノ如ク積分狂ヘルガ如クニシテ將來再ビ爆發スルコト  
 ナカランカ最早是非ヲ論スルノ餘地ナカルベシ、長夜夢多ク雲雨勸覆  
 吾人ハ其ノ底止スル處ヲ知ラズト論評セリ、

右報告ス

本信寫送付先、北京、奉天、

在吉林日本帝國總領事館

611.231d

吉林省政府機關紙吉長日報ハ重テ本月九日ノ社説欄ニ「黨日軍交闘ノ  
 將來」ト題シ大要「日本軍今次ノ出勤ハ之ヲ譬ヘバ豫メ道火線ヲ通傷  
 ニ埋没シテ行人ヲ待チ一觸忽チニシテ爆發スルト一級也故ニ頃日黨  
 日兩軍間ニ突如發生シタル衝突ハソノ是非殆ド論ズルノ要ナキガ故ニ

在吉林日本帝國總領事館

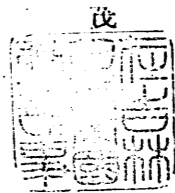
情報部

公第二四〇號

昭和三年五月九日

在吉林

總領事 川越



外務大臣勞榘 田中義一 殿

濟南事件ニ關シ當地支那紙論評報告ノ件

亞細亞局

第一課

昭和三年五月廿日接受

亞細亞局

第一課

昭和三年五月拾四日接受  
附屬書添附

普通第一三二號

昭和三年五月九日

在安東 領事 岡田 兼一

外務大臣男爵 田中 義一 殿

在濟南日支軍隊衝突事件反響ノ件

本件ニ關シ五月九日附東遼事報紙上ニ別紙寫ノ如キ論說記載アリタルニ  
付御參考迄此段報告ス

本信寫送附先 在支公使 奉天總領事

611.0311

在安東日本領事館

260

論 日 本 出 兵 (袁崖壽)

日本出兵山東今已兩度矣我國一再抗議不許出兵而日本田中內閣置若罔聞  
試問日本究竟出師何名只可含糊其詞曰保護僑民生命財產但日本僑民生命  
財產我國早已發表決加保護何用日本出兵況中國之戰爭不過兄弟鬩牆正如  
家庭內弟兄們不和衝突起來爭吵幾句至歸終必有族中人出面調解即能完結  
所以無論爭吵到那一步外人不可多嘴今番日本硬要出兵立意要侵害主權居  
心要破壞和平中國外交部再三要求撤退深恐惹出事非有失邦交感情此舉即  
日本邦人多有表同情者況日本政局黨派競爭波瀾萬丈論理亦暇兼顧無如日  
本內閣別有用心必欲出兵兵者凶也兵兵相逐能無爭乎誘云漫罵無好口爭打  
無好手倘我國南軍吃虧尙可忍受萬一日軍稍受挫折吾想日本斷難忍受既不  
能忍受必恃強國暴力以嚇之至時日本雖有武力之謀我國亦有預敵之策倘我

在安東日本領事館

261



在桑港帝國總領事館

611.2312

公第一一〇號	昭和三年五月九日	在桑港	總領事 井田守	外務大臣男爵 田中義一 殿	桑港中華總商會ノ東京商業會議所並ニ	上海總商會宛電報ニ關スル件	本件ニ關シ彙ニ拙電第四八號ヲ以テ報告ニ及ヒ置キタル處右ニ關スル	新聞記事何等御參考迄ニ進達ス	本信寫速付先 在米大使
--------	----------	-----	---------	---------------	-------------------	---------------	---------------------------------	----------------	-------------

亞細亞局

第一課甲7

昭和三年五月廿九日接受

別紙添附

記

國戰敗仍不失為弱國無甚恥辱倫日本戰敗以數十年強國之雄名從此付於流水矣並且擔負首先破壞世界和平之名是無理於天下也吾深願日本速變<sup>變</sup>猛省急急退兵既不破壞列國和平尤不失邦交感情若能如斯則中日商民莫不頌手稱慶矣

在安東日本領事館

(分類 1.11.0.2-5)

# 本埠新聞

★總商會電抗日兵犯魯 本埠中華總商會。因日本政府出兵數千。侵入魯境。非常憤激。昨五日致電祖國與日本各一封。表示反抗出兵。茲將電文錄下。

其一 上海總商會轉全國報界公會商會暨各社團鈞鑒。日兵犯魯。侵犯我國主權。危及兩國邦交。僑商憤激。請據理力爭。國際公道。僑商全體。誓為後盾。舊金山中華總商會會長李立生。

其二 致東京日本全國總商會 日本全國總商會鑒。貴國出兵犯魯。既背國際公法。復危及兩國邦交。結果。恐貴國商業。大受損失。在所不免。此種出兵犯魯舉動。全体僑商。非常憤激。請即向貴國政府。力行進諫。冀早日將犯魯兵隊撤去。以全公誼。舊金山中華總商會會長李立生。

## 濟南事件と外國の輿論

### 國際紛争の前兆

(華盛頓特電七日發) 今般に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。最近の一般に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。最近の一般に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。

### 米國は深甚の注意

(倫敦特電七日發) 當に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。最近の一般に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。

### 日本の貶責なる態度に満足する

(倫敦特電七日發) 當に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。最近の一般に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。

### 英國は一段に好感

(倫敦特電七日發) 當に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。最近の一般に於ける時局は、突はそれ以前に於ける時局と異なる。一般に國際紛争の前兆となるのであらうと云ふ。

新聞 昭和 年 5 月 9 日

### 米國慎重に 形勢注視

日本と協同  
動作は疑問

ワシントン電七日發 華軍に  
おける日支衝突の直後、米國に  
つきり地味では明かに不安の情  
がある、もしもアメリカが華軍  
は日本がこの際、東京より来る華  
の電報中に示される如く復讐的  
手段を取らぬ事を要する  
カはこれが大なる懸念を生  
ずることである、これは自然に懸  
念するであらうと信じて「慎重なる  
注目」の態度をとることになつて  
居る、華軍がアメリカ大使マ  
グニー氏は華軍の軍艦に就いて  
だ何等新しき命令を受けず、日本  
が支那においてアメリカの政策と  
むじゆするが能き行動をとる意  
向を示さない以上、アメリカ政府よ  
り向大使に改めて諷諭する様なこ  
とはあるまい、又アメリカは如何な  
る軍備の下においても山東省にお  
ける華軍復讐のため軍行動を懸  
念することにつき日本と協同する  
ことにはあるまい、要するにアメ  
リカが列強に  
**注意** するところは華軍留  
の米國民の生命財産に對し保護を  
加ふことである、もしこれがた

米國の慎重をゆるめんとす  
れば、何れも等らざるものと  
ならぬ、これを懸念するであらうと

日新聞 昭和 年 5 月 8 日

### 濟南事件と各國の輿論

#### 日本軍に 感謝す

京津タイムズ

【五月七日天津發所著電】露地  
京津タイムズ（北支那に於ける代  
表外字紙）の論調及同主筆の意見  
要旨の如し、他の外字紙又概ね  
一致す  
強固なる排外思想に燃え外國殊  
に日本の軍力を解せざる南軍今  
回の暴行は天災に許し難きも  
のなり、若し日本軍無かりせば  
濟南の内外人は悉く殺戮せられ  
たるべく此路大に日本軍に感謝  
する所なり、日本は本事件の滿  
足なる解決に至る迄一時山東を  
保護占領し斯くの如き暴行の再  
演を防止すべし、之に對し列強  
は日本を支持することを決して妨  
害せざるべし

#### 上海言論界 頻りに逆宣傳

【濟南發八日發所著電】濟南事件  
に關し上海の言論界は盛んに  
上海附近の支那新聞記者は盛んに  
日本兵が殺害交渉委員を殺し革命  
軍將士二十餘名を殺戮し兇暴の限  
りを盡せり暴論し、かに復讐の言  
傳振りを發揮して對日感情の悪化  
に全力を傾注し華軍復讐を叫んで  
輿論を喚起してゐるが之等は悉く  
捏造であつて交渉公署は日本軍守  
備區域内に在り最も安全に保護さ  
れてゐる、殊に交渉交渉は事件突  
つて支那側の不法行為を露し道

#### 南北兩政府の 抗議を重視

英紙の論調

【ロンドン七日發聯合】今朝のロ  
ンドン各新聞紙は何れも濟南事件  
を中心とする各報の論調と各員を  
際やかに埋め、特に南北兩政府が  
一致して日本の軍干渉に抗議せ  
る事を重視してゐる、モートン  
グ・ポスト紙は更に曰く

#### 日本出兵賞揚

漢口の英紙

【漢口八日發電】英國系のセン  
トラル・チャイナ・ポスト紙は社  
論にて  
日本なればこそ正義の爲めに斯  
の如く奮つたる態度に出たが爲  
つて我が國は從來尊重した失  
敗に今更なる賠償が付いたのであらう  
と論じて居る

日新聞 昭和 年 5 月 9 日

# 米國の同情を得べく 支那側盛んに逆宣傳

虚構を並べた蔣介石の聲明書  
非違は日本にあると

【ワシントン特電】(六日) 今  
日の新聞に載し支那からワ  
シントンに來る新聞記者は大體にお  
いて公平であると思はれる中にも  
最も一級の方法をひいたのは蔣介石  
の聲明書でその内容は次の如く  
である。

事件突發當日の三日前日本の駐  
支一部隊が南軍の濟南交際署を  
訪問して蔡文瀾委員を捕へ爾後  
をめぐり辱を耐へしめて後これ  
を殺害し建物を放火した同部  
隊は後對南京政府の外交部を訪  
問したが外交部長不在のため建  
物に放火した。

もとより右の聲明書は一方のみを  
見たものであつて何がゆゑに日本  
部隊が新機を發出でざるを得  
なかつたかについては一言もふれ  
てゐないけれど右に屬しては支那  
側からも東京からも何等の電報が  
ないため米國民は一般に右聲明書  
なるものを

信用する體がある一が  
米國駐華公使の北京電報は  
蔣介石と交際するに當つては  
佐々木中佐は不法なる支那兵に  
捕はれてまことに殺されんとし  
てをるところを蔣介石部下の將  
校に救はれた。

日を報じ他の電報は日本婦人が支  
那兵に虐殺された旨を報じたがそ  
の報告が日付や時間か報せられな  
いため米國では日交いつれがさき  
に手をだしていづれが復讐したもの  
であるかその報に迷つてを今  
取のころでは米國は大體におい  
て日本の聲明の態度が嚴酷におい  
て日本人の生命財產の保護を目的と  
する以上は非常であると承認して  
をるがたとひ報復にせよ日本側が  
暴虐な行爲に出たとすれば米國民々  
民の同情は支那側に一變するであ  
らう。

日々新聞 昭和 年 5 月 9 日

英  
支那軍  
第七八號

電信寫

269

1.  
保  
保  
保

和利 五二九九 平 倫敦 五月十日前着 情、亞

田中外務大臣 佐分利代理大使

第七八號

九日ノ各新聞ハ其ノ後兩軍間戦闘ノ結果南軍ハ一時撤去シタルモ日本軍ハ包圍狀態ニ陥リ日本ハ更ニ一ヶ師團ノ増派ヲ決定シタルモ南軍主力ハ北伐ニ從事セル旨ヲ報シ「ガイ・ディアン」ハ日本ハ今ヤ山東鐵道及濟南ヲ保障占領セントシツツアル處最近漢口及南京ニ於ケル英國ノ經驗ニ鑑ミ右ハ萬已ムヲ得サル措置ト認メ難ク又之ニ依リ必スシモ要償ノ満足ヲ促進シ得サル可キカ故ニ結局無制限ノ占領トナル可シ而シテ日本今回ノ措置ハ從來列國ノ協調シ

タル支那内亂ニ對スル絕對不干渉ノ政策ヲ一變スルモノニシテ其ノ結果英國内ニ於テモ長江沿岸保障占領ノ主張再燃シ延イテ勢力範圍設定ノ時代ニ逆行スルヤモ闢リ難ク支那ノ一般の排外熱ヲ增長セシム可シト論シ「テレグラフ」ハ日本ハ支那ノ排日運動乃至對外宣傳ノ熾烈ナル可キヲ豫想シタルモ同時ニ列國カ日本ノ眞意ヲ誤解スル無キヲ信シタルカ故ニ今回ノ行動ニ出テタルモノト思ハルルカ其ノ結果我儘ナル支那軍事頭目ニ峻烈ナル實物教訓ヲ與ヘテ列國在留民及支那人自身ヲモ齊シク利益可シト述ヘ「デイリ」ハ「エクスプレス」ハ日本ハ今ヤ膠濟ノ爲山東ヲ占領シテ多年ノ希望タル大陸政策ヲ夢想シ居ル可ケンモ此ノ野心ノ實現ハ支那ニ利害關係アル列強ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ日本ハ須ラク是等列國ト協調シテ行動ス可キナリト論シタリ

米、佛、獨、伊、露、白ニ轉電セリ

海外及傳